

佐々木

SAKABAYASHI

隨筆特集



至高の陶醉



金刀比羅宮蔵 寛政6年(1794年)円山応挙 晩年の作(部分)

220余年の伝統の技が贅をつくした「煌」きらめき

讃岐の金毘羅酒として親しまれてきた金陵が、酒づくりの贅をつくりおくりた「純酒」煌。
金陵の歴史は今をさかのぼること三〇余年の寛政元年。当主八代目であった西野嘉右衛門が、金
星羅さんの薦めはじめた酒づくりがその第一歩。以来、金刀比羅宮のご神酒として栄誉をうけ、そ
の丹精こめた手づくりの味は、金毘羅詣の人々からもよく親しまれてきた。
「純酒」煌のえも言われぬ風味と心には、金陵の心意気と酒づくりのひびく神髄が細やかに
思っています。

真珠玉のやとく搗きあげ

水晶のやとく研ぎすました酒造好適米(山田錦)

清酒造に便しているのは、酒造好適米の中から選りぬかれた最高の大粒米。これを丹念に高度精
白し酒の雑味等の原因となる外層部を削り、磨き、吸水のよい、粟粒よりやや大きい、玄米のわず
かす割はれの、まるで真珠
玉のようなだけの酒米
とする。これを、良質
の寒の水でくり返す
り返し研ぎすまし、本
格的な酒づくりの仕込
みへと移っていく。
昔から「麴二配三
造り」といわれいる
とおり複雑多岐にわたる
工程を熟達の手が一つに
つなげていく。杜氏は寒中夜も眠らず、我が子を育てるまに精魂をこめ、技の限りをくつして
低温でじっくりつくりあげる。
こうして、清酒のアルコール分、旨味を米けから造り出した、手づくりの微妙精緻な煌を誕生
させたのです。
芳醇なこく、口あたりの爽やかさ、喉ごしのよさ、まさに清酒の芸術品。この稀なる清酒煌を、
日本酒をこなく愛するみなさまにじっくりと味わいつくしていただきたい。

煌
金 陵
超特撰

税込
標準価格 10,800円 1.8L
5,400円 720ml

ラベル右下に記しております番号は、
一本一本責任をもって製造いたしました
品質の証し。ご入手いただいた
貴方さまだけの番号です。

西野金陵株式会社 香川県仲多度郡琴平町四六三 電話(〇八七)七三三 四三三三
未成年者の飲酒は法律で禁じられています。紙類中や投函期の飲酒は禁じます。

酒林

SAKABAYASHI

隨筆特集



第91号

酒林

SAKABAYASHI

随筆特集

尾道・千光寺の多田氏と袖ヶ浦の多田氏	志村有弘	19
ミシガンの秋	宮地智子	17
『長流』昨今	内野潤子	15
像になりたい 像は癌に罹りにくい	杉本忠夫	13
絵と文 ㊦ パンジー	中西美子	12
ほろ酔い詩歌紀行 ― 神去りてひとり	日高昭二	10
フランス綴の『邪宗門』	安森敏隆	8
訪問詐欺	高橋和島	6
引退の時	池井優	4



絵と文 ㊦

僕はかつてボールペンだった
 宗教の問題も倫理の問題も
 ベルリンの壁のメッセージ
 片岡義男…21
 志村栄至…23
 さかもとふさ…25

丙申元旦
 山西靖彦…26

大河ドラマ一考
 永岡慶之助…28

絵と文 ㊦
 シークワースー
 佐川毅彦…30

初日の出
 山本千明…32

この夏のころみ
 宮本富夫…35

なびけ、この山
 池田一貴…37

表紙・グラビア…さぬき庵治石硝子

引退の時

池井 優
(慶應義塾大学名誉教授)



山本昌の場合

五十歳一カ月、二〇一五年のシーズン終了とともに三十二年に及ぶプロ野球生活に別れを告げたのは、自称「球界のシーラカンス」山本昌投手であった。一九八三年ドラフト五位で中日ドラゴンズに入団、以後ドラゴンズ一筋、この間積み重ねた白星は二一九、黒星は一六五。高校時代は全く無名の選手であった。日大藤澤高校野球部員としては甲子園出場の経験もなく、まさかプロから声がかかるとは思ってもいなかったという。一八六センチ、八七キロの恵まれた体格と左腕であることがスカウトの目にとまり、プロ入

りしたが、四年間は泣かず飛ばず、転機が訪れたのは五年目のことであった。星野監督の指令によって、中日が業務提携をしていたドジャースに野球留学すべく渡米した。そこで学んだのは、アメリカのマイナーリーグのハングリー精神と後に山本の代名詞になる内外角に落ちるスクリーンボールの習得であった。

一九八八年八月に初勝利をあげるのと、翌年からローテーションの一角にはいり、やがて二桁の勝ちが見込めるエースへと成長していった。三十歳を超えてベテランといわれ始めた九六年「初動負荷理論」をとりいれ、体の

仕組みを積極的に学び、選手生命を延ばしていった。四十一歳一カ月でノーヒットノーラン、二〇〇八年には最年長の四十一歳十一カ月で通算二〇〇勝を達成、四十五歳で先発完投などこれまでの記録をつぎつぎと塗り替えていった。五十歳を迎え、球団は戦力より長年のドラゴンズへの貢献を考慮し、ファンやマスメディアにとっての話題作りもあって引退の花道を用意していた。そして十月七日広島戦で先発、打者一人限定で史上最年長登板の記録で選手生活に終止符を打った山本は記者会見に臨んだ。

「みっともない涙をお見せしてしまい申し訳ありませんでした。：明日から練習しなくていいと思うとやはりさびしいですが、野球をもっと勉強していかなければと思っています」。

三十年以上に及ぶ現役選手生活、この間挫折も経験した。引退後の希望は野球解説者、長い経験を踏まえ、いい解説者となるであろう。

山下泰裕の場合

ボロボロになるまでやって力尽きて引退する。それもスポーツ選手の人生なら、外から見たとまだまだ十分やれると思われるのに引退するケースもある。

山下泰裕が引退を表明したのは、一九八五年六月十七日のことであった。連勝記録二〇三、全日本柔道選手権九連覇、無敵の山下はまだ二十八歳であった。負け知らずのなかでの引退表明に世間は驚きを隠さなかった。なぜ辞めるんだ。まだやれるじゃないか。山下が初めて引退を意識したのはそれより二年前、モスクワで行われた八三年世界選手権九十五キロ超級で三連覇を達成したその夜だったという。この大会、準々決勝で優勢勝ち、決勝でオランダの選手に一本勝ちして連勝を一八九に伸ばした。その晩、それまでどんな試合でも宿舎で一人になると嬉しさがこみ上げてきたのにこの日はそれがなかった。疲れだけがどっと出て、負けなくてよかったなあ、それ

だけだった。十カ月後にはロサンゼルスでのオリンピックが控えている。山下の誇りは、国際大会で外国人選手に負けなかったことであつた。このプライドこそ山下の勝利への源泉だったのだ。

「自分が負けたら日本の新聞は何を書くだろう」と考えた。「山下敗れる」と書かれるなら良いが、「日本柔道敗れる」と書かれたらたまらんなあと思った。日本の柔道を背負っている自覚は誇りであると同時に重圧でもあつた。柔道の国際試合は八階級で戦われる。山下が出場するのは重量級であったが、もし自分が敗れ「日本柔道の敗北」と書かれたら、一生懸命努力している他の階級の人たちに顔向けできないと悩んだ。日本のみならず世界中のメディアが「金メダルの最有力候補―山下」と予想するなか、一抹の不安を抱えながら出場したロス五輪、不安は的中した。二回戦西ドイツのシュナーベル戦で右足の腓腹筋を断絶、右足をひきずりながらも準決勝、決勝と寝技

に持ち込んでようやく金メダルを獲得、会場メインポールに日の丸が上がった。だが、引退への決意は固まっていた。

その後全日本選手権を迎えるまで苦しい日々の連続であつた。オリンピック優勝に伴う連日の祝勝会、たまっていたインタビューなどへの対応など体調がよくないにもかかわらずつぎつぎとこなさざるを得ず、満足できる稽古をすることもなく、山下を継ぐのは彼だ」と自他ともに認める斎藤仁との戦いに臨んだ。結果は山下の優勢勝ちに終り二〇三連勝を飾ったが、火花の散るような試合がしたかった山下にとっては、凡戦だった。郷里の熊本に帰り、家を出て柔道を始めた原点に戻って考えた。

正式に引退を発表したのは全日本優勝から二カ月後のことであつた。記者会見のあと、ちよつと跳び上がると宙に三メートルも浮かぶと思うほど気が楽になった。背負っていたものの重さを改めて感じた瞬間だったという。

訪問詐欺



高橋和島

(作家・郷土史家)

で草むしりをしていたわたしのところへリフォーム会社のネーム入り作業服を着た若い男が挨拶にやってきた。

「Fさん宅へ工事に入らせていただくことになりましたんで、よろしく」

まだ三十前とみられるその男はひとくちで言うところの好感の持てる若者だった。木訥な感じのするしゃべり方。明るい笑顔……。

頭をさげた彼は、きびすを返し、二、三步歩きかけたところで立ち止まり、ごく自然な口調で切り出した。

「いま、足場が上がって作業箇所チェックをしたところやけど、お宅の屋根で、瓦のずれているのが見えました。放置しておくと雨漏りするようになりますよ」

後から考えると、悪質リフォーム業者の決まり文句だ。これが飛び込み訪問の台詞なら当然警戒して無視し、聞き流したに違いないが、相手はFさん宅で工事をするようになった業者で、しかも好印象をもってしまったところだ。わたしは不用心にも、それはどの

振り込め詐欺や訪問詐欺にひっかかり、大金を取られる老人が多いことを知る度に、自分は用心深いほうだし、新聞・テレビで報じられるような手口で騙されるほど思考力や判断力が衰えていないはず。何より取られるような大金など持っていないから大丈夫だ——と自分に言い聞かせてきた。

ところが、最近、こんな甘い考えでいると痛い目に遭いかねないと、不安に駆られる出来事があった。

ひと月ほど前のことだ。六メートル道路を挟んだ斜め向かいのFさん宅に金属パイプの足場が組まれ、防塵落下物除けのネットが張られた。

Fさん宅はわが家と同時期に建てられた築約四十年の木造二階建て。あちこちが傷んでいる。屋根を直すか壁の塗り替えてもやるに違いないと見当をつけていると、二日後、アルミ製梯子をルーフに載せたライトバンがやってきて作業が始まる気配。ほどなく、庭

箇所かと聞き返した。

男は内心しめたと思つたことだろう。

「テレビアンテナのあたりです。

一、二枚だけやから、なんなら今おれが直してあげてもいいですよ」

すっかり相手のペースに嵌つてゐる当方は手間賃を訊く。簡単な作業だから三千元でいい——と言う。

ライトバンから梯子を下ろしてきた彼は、拙宅の屋根へ登つていく。そして、幾らもしないうちに降りてきて言つた。

「当面必要な直しはやつたけど、屋根全体が傷んでますよ。これほどひどい状態になつてゐるのを目にしたのは初めてやね。念のため、携帯電話に撮つてきました。繋いでお見せしますんで、テレビを貸していただけますかね」

気を緩めていたとはいえ、初対面の男を簡単に家にあげるほど、わたしも馬鹿ではない。生返事で聞き流し、三千元を払うと、領収書に署名捺印を求めてきた。

支払う側に署名捺印が要るのかと首

をひねると、上司へ報告する際に必要だと言う。捺印まではできぬと断ると、三文判でいいから押してくれと食ひさがつてくる。

「補修工事請負契約兼領収書」と記された用紙を見直してみた。発注者の署名捺印欄ほか、請負者（業者社名押印済み）、工期、工事内訳、支払方法欄の活字が並ぶ。①②③の書き込み欄がある工事内訳①に「シーリング、瓦止め二箇所、三千元」の記載が見られた。

業者が後から残りの空欄部②、③に勝手な書き込みをして発注があつたと主張したらどうなるか。これは警戒せねばと思ひながら何げなく用紙の裏を見ると、ごく小さな文字がびっしり。「クーリング・オフのお知らせ」である。冒頭部を読むと「現金取引で、その代金が三千元未満のときは、クーリング・オフはできません」とあつた。再度促された押印をきつぱり断ると、男は顔を強ばらせて立ち去つて

行つた。

Fさん宅で作業が行われたのはわずか一日だけ。三日後、足場は解体され、業者は姿を見せなくなった。後日判明したところによると、彼らが工事挨拶に回つた近隣の家は軒並み屋根の傷みを指摘されたものの、みな警戒して一切相手にしなかつたらしい。

夫に先立れ、一人暮らしをしている九十歳間近のFさんに、悪質業者だつたのではと尋ねてみると、足場代はちよつと高かつたけど、頼んだ庇の修理代金は約束通りでしたよ——とのこと。

足場代が「高過ぎる」相場なのは承知しているがそれでも、ちよつとどころか法外な足場代を払わされたようだ。しかし、ご本人、被害に遭つたという意識はまるでなく、きちんとした業者でしたよ——と言う。

巧妙な騙しのシナリオをもとに手間ひまを惜しまず誘ひ込み、しかも相手に被害に遭つたと思わせないので、最近の悪質業者の手口らしい。

フランス綴の『邪宗門』

安 森 敏 隆

(同志社女子大学教授
ポトナム短歌会代表)



初版『邪宗門』は「フランス綴」になっている。一枚の紙に十六ページ（あるいは八ページ）分を一度に印刷したものであり、その折り目折り目を裁断して本にするのであるが、裁断しないで折ったままの状態で綴じたものをフランス綴と言うのである。読者

は、その本を初めて手にして、折り目に沿ってペーパーナイフを入れて、綴じられたページを初めてみることで、作品にただ一人ふれることができるのである。

『邪宗門』の場合、「父上に献ぐ」の献字があり、底のところの折り目に

ペーパーナイフを入れると右のページに「父上、父上ははじめ望み給はざりしかども、兎は遂に生れたるところにあこがれて、わかき日をかくは歌ひつづけ候ひぬ。もはやもはや咎め給はざるべし」とあって、左のページには、かの有名な、ダンテの『神曲』中の

「地獄界」の冒頭部分のパロディと言われる次の言葉が載せられている。

邪宗門扉銘

ここ過ぎて曲^{メロディ}節の悩みのむれに、
ここ過ぎて官能の愉楽のそのに、
ここ過ぎて神経のにがき魔睡に。

そして、次をはぐれば、右のページに、

詩の生命は暗示にして単なる事象の説明には非ず。かの筆にも言語にも言ひ尽し難き情趣の限なき振動のうちに幽かなる心霊の歎歎をたづね、縹渺たる音楽の愉楽に憧れて自己観想の悲哀に誇る、これわが象徴の本旨に非ずや。されば我らは神秘を尚び、夢幻を喜び、そが腐爛したる頽唐の紅を慕ふ。哀れ、我ら近代邪宗門の徒が夢寝にも忘れ難きは青白き月光のもとに歎く大理石の嗟嘆也。暗紅にうち濁りたる埃及の濃霧に苦しめるスフィンク

スの瞳也。あるはまた落日のなかに笑へるロマンチツシユの音楽と幼兒磔殺の前後に起る心状の悲しき叫也。かの黄臘の腐れたる絶間なき痙攣と、ビオロンの三の絃を擦る嗅覚と、曇硝子にうち噎ぶウキスキイの鋭き神経と、人間の脳髓のいろしたる毒艸の勾深きためいきと、官能の麻醉の中に疲れ歌ふ鶯の哀愁もさることながら、仄かなる角笛の音に逃れ入る緋の天鵝絨の手触の棄て難さよ。

という、上田敏に少しく影響されながらも独自に作り上げた象徴詩論と「我ら近代邪宗の徒」としての覚悟を見事に開示した文が載せられている、という具合である。

最初の詩である「邪宗門秘曲」からは、十六ページ分を一度に印刷された「フランス綴」になっている。五聯中の一聯目である、「邪宗門秘曲」の題と一聯目の四行が左のページに見えるように置かれている。

われは思ふ、末世^{まうせ}の邪宗^{じやくしゆ}、
切支丹^{きりしたん}でうすの魔法^{まほう}。
黒船^{くろふね}の加比旦^{かひたん}を、
紅毛^{こうまう}の不可思議國^{ふかしぎこく}を、
色赤^{いろあか}きびいどろを、
句銳^{くゑ}きあんじやべいいる、
南蛮^{なんばん}の棧留稿^{さんれうこ}を、はた、阿刺吉^{あらき}、
珍砲^{ちんたう}の酒を

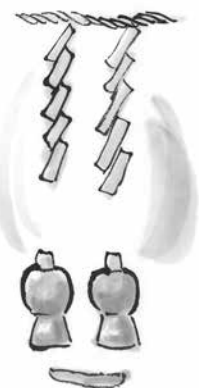
この「邪宗門秘曲」の冒頭の四行が、先ず作品の一ページ目に「末世^{まうせ}の邪宗^{じやくしゆ}」「切支丹^{きりしたん}でうす」「黒船^{くろふね}の加比旦^{かひたん}」「紅毛^{こうまう}の不可思議國^{ふかしぎこく}」「色赤^{いろあか}きびいどろ」「句銳^{くゑ}きあんじやべいいる」「南蛮^{なんばん}の三留稿^{さんれうこ}」「阿刺吉^{あらき}」「珍砲^{ちんたう}の酒」と言つた南蛮趣味や異国情緒を彷彿させる珍奇な語彙が彩なして現れるのである。そして、二聯目以降は隠され、初版購入者のみがペーパーナイフで二ページ以降（これも下だけの綴じ方と下と横の両方が綴じられた二種類がある）を開封して五聯からなる「邪宗門秘曲」の詩に初めて出あうという仕掛けになっている。

ほろ酔い詩歌紀行

神去りてひとり

日 高 昭 二

(神奈川大学教授)



物見、遊山に酒は不可欠のものだ。

また、祭り、花見など、何かにつけて人々は酒とつきあってきた。

物見、遊山といえは、昔は寺社参りである。伊勢参りや金毘羅参り、善光寺参りなどよく知られている。

神社に参れば、たいていは神酒を授かる。その場で頂戴する場合もあれば、瓶子と杯(盃)を持ち帰る場合もあった。民俗学の神崎宣武によれば、それは略式の「直会」であり、「神人供食」の儀であり、そうして参拝者が神酒を授かり飲むことで、「おかげ」を得ることになるのだという。

このとき神酒を飲んだ瓶子や杯は、参拝を証拠立てる「宮筭」となり、そしてそれが、いわゆる土産物の語源ともなった。もちろん、寺社参りの参拝者が増えれば、酒器に限らず寺社の名前入りのみやげが門前で売られるようになるだろう。

かつて宴会などでは「お流れちょうだい」というふるまいがあったが、これもじつは神が口をつけ給うた酒のお流れをいただくというところからきているのだと神崎はいう。われわれの酒とのつきあいの、古い歴史とのつながりを感じさせるひとこまであろう。

酒が神に供せられ、人は神とともに酒を飲む。このともに飲むということが大事なことで、酒を仲立ちにして、人々は信心祈願のあかしとした。酒は神への捧げものであり、かつ神からの授かりものであった。もとより現代人のわれわれには、そうした「神人供食」の儀式は、はるか遠くに過ぎ去っているが、しかし神に「供える」という意識は、われわれの心のどこかにひそんでいよう。

一合の酒にさかづき添へ供ふ
誰がたづさへし崇徳のみささぎ

窪田章一郎『素心蠟梅』

かつて「節供」という行事があった。これは平安時代に宮中の儀式として始まり、江戸初期に定められたという行事である。そのうちの陰暦九月九日は重陽の日といい、延命長寿を記念して菊の花を浮かべた菊酒を飲んだ。だから重陽の日は、別名「菊の節句」ともいわれる。黒田淑子に次の一

首がある。

燈明をかかげて菊の節句する
この宵離る飛驒古川町

もちろん重陽の日は、中国の故事にちなむものである。周の王の侍童が、誤って王の枕をまたいでしまったために山に流され、そこで菊の露を口にして不老不死を得たという話で、謡曲の「菊慈童」としても知られる。その詞章に「雫も芳しく滴りも匂ひ、淵ともなるや谷蔭の水の」と描写される「菊水」の酒である。つまり、菊の露が化した薬酒である。

この故事にちなんで、多くの人が山にのぼり、菊酒を飲むと、つつがなく一年を暮らすことができるという信仰が生まれた。いや、信仰というより健康が大事で、季節の変わり目に日頃の養生を願うことが大切になったと思われるが、もとより山で菊水を得るのは無理でも、菊の花を杯に浮かべて飲むことはできる。しかし、どうやらこの

行事は民間にはそれほど定着はしなかったという。

菊酒を飲む習慣はあまり行われなかったけれども、しかし同じ秋の季節に行われる月見の宴のほうは広く普及した。むろん都会ではむしろかしくなっているが、多くの土地では、まだ続いている。そしてこの宴にも酒を「供える」という意識はやはり残っている。

満ちのぼる月に今宵は供せんと

土瓶は酒をあふれしめたり

山崎方代『右左口』

供へ物の芋はなけれど月光の

清浄を讀え酒飲む我は

高野公彦『天泣』

空には満月。その満ちている月に供えるのなら、あふれるほどの酒であるほうがいいに決まっている。いや、その月の光りの「清浄を讀える」ためには酒は欠かせない。

こうして神といい、月といい、聖な

るものと人が心交わすために欠かせぬ酒。酒を媒介に、人は何かと共存していることを、ときどきはふりかえって確かめるべきだ。だが、凡なるわれわれは、一体何と「ともに」あるのかを忘れる。あるいは「ともに」あることを確かめるすべもなく、ただ「ひとり」酒を飲むこともある。神去りてのちは、それともやむえないことにちがいない。ひとり飲む酒が至福の時間をもたらししてくれることもあるからだ。

ひとり飲むこの夜の酒や何すれぞ
かなしきまでに心澄みゆく

吉野秀雄『苔径集』

ひとり酌む酒しらじらと酔ひくれば
恋ほしそのかみの放埒の酒

千勝三喜男『血縁』

ひとり酌む新年の酒みづからに
御慶を申す（すこしは休め）

岡井隆『神の仕事場』

パンジー

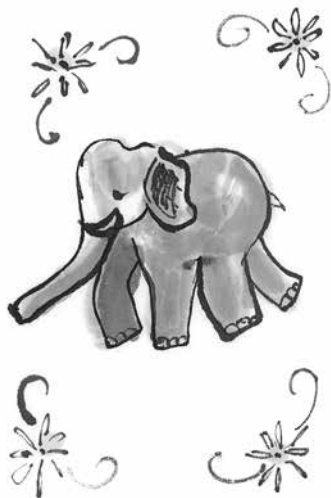
中西美子



確か昔は、三色すみれと呼んでいたのにいつの間にかパンジーと呼ばれすっかり定着しました。私は、さんしよくすみれと言っていました。サンシキすみれが正式のようです。パンジーとサンシキすみれとは、正しくは、別物のようです。パンジーは、園芸品種として交配改良を重ねたものです。しかしこんなに優秀な園芸品種は、そうそうないですね。初心者でも容易で花の少ない冬にたくさんの花をつけ彩も豊富で、低い位置で他の木の邪魔もしない、うまくすれば初夏すれすれまで花を絶やさずいるのです。あっぱれなやつです。小型のビオレも同様素晴らしい園芸品種です。

パンジーの名前の由来は、フランス語のパンセ「考える、物思い」からきているようです。姿が顔をかしげているように見えるからでしょう。ある日地上に降りた天使が、かわいいうしろみれを気に入って、みんなが笑顔になりますようにと三回キスして飛び立ったときサンシキすみれの模様ができたそうです。聖バレンタインが投獄されたとき、窓口に咲いたすみれのハート型の葉を「私を忘れないで下さい。」というメッセージと共に鳩に託した話や、シェークスピアの「真夏の夜の夢」のなかでは、花汁を目にたらすと目覚めたときに最初に見た男性に恋する。媚薬になったりみんなに愛され一鉢置くことにしました。

象になりたい 象は癌に罹りにくい



杉本 忠夫

(虎の門病院 内分泌代謝科
非常勤嘱託医)

人の命を脅かす三大成人病は、脳梗塞・脳出血（脳血管障害）、心筋梗塞・狭心症（虚血性心疾患）、癌（悪性腫瘍）といわれはじめてから久しくなります。

いずれの疾患も重大な結果に至ることになり予防、治療が難しい疾患です。しかし、幸いなことに、実地臨床面では各疾患において、MRI、CT、超音波検査、血管造影検査、内視鏡手

術、血管外科手術等、診断技術、診断能力、治療法がめざましく進歩し、いずれの疾患も予後が著しく改善してきております。

また、脳梗塞発作、急性心筋梗塞など緊急性を要する疾患については、消防救急隊と専門医療機関との間で、以前より無駄のない緊密な連携・協力が行なわれるようになり、急性疾患の治療成績が大きく改善してきております。

す。

この三大疾患のひとつである癌について、象に関わる興味ある研究報告がなされております。そこで、その研究をみてみましょう。

昔から、愛らしい目と長い鼻で、象は人気の高い動物です。

また、象は、人間と同じように長寿な動物であることは、よく知られております。井の頭自然公園の象は、な・子（六八歳）はマスコミにもよく取り上げられております。

ところで、一般的には体が大きい動物ほど、身体を構成している細胞数が多くなります。ところが、細胞数が多いほど、細胞が癌に変わりやすくなるといわれております。

象の身体を構成している細胞の数は、人間の一〇〇倍もあるといわれております。したがって、細胞の数が一〇〇倍も多いと、先ほどの説からすると、象の細胞が癌になる確率が人間より高くなることが考えられます。

また、細胞数とは別に、動物は年齢

を重ねるほど癌になりやすくなります。

一〇〇歳（白寿）の長命な人では身体の中に三個以上の癌を持っていると報告されております。この方々の場合、臨床上問題はほとんどありません。

ところが、人間は、歳を重ねると三〇%以上の人が癌に罹るのです。しかし、象は六分の一に当たる五%しか癌にならないといわれて、生物界では興味を持たれる現象です。

象の世界に比して、人間社会においては約三〇%の方々が何らかの癌で亡くなっております。

先程、述べましたように、身体の大さきからは、人間より象の方が癌に罹りやすいはずですが、なぜ、象より人間の方が癌の頻度が高いのでしょうか。

大きな要因として、人間社会が機械化、近代化など急速に進歩したことが、要因としてあげられております。

また、細胞は、細胞自身が傷害されたことを感知できるSMOKE ALARMSを持っています。このSMOKE ALARMSで傷害された細胞を、修復するか、ま

たは傷んだ細胞をトカゲの尻尾のように切り捨てるかを、細胞自身が判断しているようです。

このSMOKE ALARMSはTP五三遺伝子にあります。人間はこのTP五三是一個しか持ち合わせておりませんが、象はこのTP五三を二〇個も持っております。

その結果、象の場合、この二〇個のTP五三遺伝子で障害を受けた細胞を、人より早く、感知・処理をして、傷んだ細胞が癌にいたるのを予防しているのではないかと推測されております。

象はこのようにして癌になる細胞を巧みに排除し、癌に罹りにくくなっているのではないかと考えられています。

また、人間の社会生活は、短時間で近代化し、肥満、過剰な日光浴、廃棄ガス排出等、不健康な社会生活が、元々持っている発癌予防メカニズムを狂わせ人間の発癌を助長しているのではないとも言われております。

象がタバコを吸っているのをみたことがありますが、象はタバコを吸わな

いですね。したがって、人間社会で問題となっている喫煙関連癌（肺癌、喉頭癌、尿路系癌など）の発症は皆無となります。

さらに、象は一生涯といえるほど高齢まで子供を産むことが可能といわれております。

しかし、人間は、更年期、ついで閉経し、生殖能力がなくなってしまう。以降、新しい生命を育むことが全くなりません。

閉経後も、平均余命から計算すると約三〇年以上も生殖活動から無縁な生活が続けていくことになります。

詳しくは研究途上ですが、人間の生殖能力が象より早く停止することが、象に比べて、癌になりやすい要因の一つに挙げられているようです。

今年からは、心を新たにして、今まで以上に健康に気を配り、癌はじめとして、三大成人病を予防して、象の・な子の長い鼻のように、健康な長い人生を楽しみましょう。